つながろう NIPPON 連合

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第 60 号
2011 年 8 月 30 日

ボランティア隊・第21陣が現地入り

8 月 28 日、連合災害救援ボランティア第 21 陣の 135 名が現地入りし、29 日から活動を開始しています。これまでの派遣者数は実数ベースで 5,532 名、延べ活動人数（人数×活動日数）は、32,166 人となっています（8/29 現在）。

活動レポート＝第 20 陣→第 21 陣＝

岩 手

●大東拠点

【8/23-26】大船渡市内で側溝のヘドロ・土砂出し作業、浦浜川でのがれき回収などを実施。陸前高田市内で水田からのがれき撤去、草刈り作業を実施。

【8/29】大船渡市内での側溝からの泥出し作業、陸前高田市内で水田からのがれき撤去、除草作業を実施。

宮 城

●仙台拠点

【8/24】仙台市宮城野区岡田地区で、家屋周辺のがれき回収、津波で枯れた庭木の抜根作業を実施。

現地から 抜根作業は、気温の高さもあり全身汗だくの作業でした。依頼主の方からは、これまで何度かボランティアに依頼したが、今回がいちばん丁寧に作業してくれたと、うれしい言葉を頂きました。

【8/29】仙台市宮城野区岡田地区で、民家跡地の整備作業（ガラス片、石などの除去）を実施。

●美里拠点

【8/25-26】石巻市鮎川小渕浜で個人宅の片づけ作業を実施（写真左）。

【8/29】石巻市大原の民家でがれき撤去作業を実施。

現地から この日は、敷地と 1 階部分の片づけを実施。位牌や写真を探しながらの作業となりました。気温は 24℃ほどでしたが、日差しが強く、日焼けや熱中症対策は不可欠です。翌日は 2 階部分の作業を行う予定です。

●千厩拠点

【8/24-25】気仙沼市波路上（はじかみ）地区で、畑の土中に埋まったがれきなどの撤去、草取りなどを実施。25 日は気仙沼市総合体育館で、避難者の家財道具の移動作業を実施。

【8/26】気仙沼市大浦地区で、田んぼでの泥出し、ため池のヘドロ除去作業を実施。

現地から 約 1,000 平方メートルの田んぼに、10～15cm の厚さで堆積しているヘドロを削り取る作業（写真中）。はじめに熊手を使ってはぎ取って行きますが、ヘドロは粘土質でかなり固く非常に力が必要です。削り取ったヘドロは土のう約 200 袋の量になりました。ため池での作業は足元が滑りやすく、足場確保のためトタンを敷いての作業です（写真右）。ヘドロには重油が混じり、土のうからも泥水が漏れるため、運ぶのはひと苦労です。

連合本部・災害対策救援本部　ボランティア派遣担当班
電話 03-5295-0555　FAX03-5295-0547（非正規労働センター）
hiseiki@sv.rengo-net.or.jp　（バックナンバー）http://www.jtuc-rengo.or.jp/saigai/report.html

つながろう NIPPON 連合

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第 61 号
2011 年 8 月 31 日

台風 12 号接近中！

台風 12 号が日本列島に接近しています。進路によっては東日本大震災の被災地に接近するおそれもあり、洪水や土砂災害など、現地への影響が心配されます。ボランティア活動について、一部のボランティアセンターでは台風接近に合わせて活動を休止するとの情報も入っています。

悪天候時の連合ボランティア活動については、各地のボランティアセンターの判断に従うこととしています。今後も、現地ボランティアセンターの判断により活動休止などの対応があり得ます。いずれにしても、活動中および拠点滞在中は、気象情報に注意し、滞在中の安全に十分な注意が必要です。

安全上の注意点　再度確認・徹底を

連合のボランティア活動も開始から 5 カ月が経過します。8 月 31 日現在、実数ベースで 5,500 名を超える方々が参加し、延べ活動人数も約 32,400 人となっています。この間、幸いにも重大災害なく推移していますが、引き続き、安全に十分注意した活動をお願いします。

安全上のポイントについては「ボランティア活動のてびき」やこれまでのボランティアレポート（第 57 号ほか）で紹介していますが、最近の事例から、以下の点に改めて注意をお願いします。

◆踏み抜き注意◆

水田での作業時、水たまりの中にあったクギを踏んでしまう事例が発生しています。安全靴、安全中敷きなどは必ず着用してください。とくに陸前高田、大船渡地域は依然として多くのがれきが残されており、クギがついたままの木材もあるとのことです。

◆指挟みに注意◆

側溝の泥出し作業中、フタを戻す際に指を挟む事例が発生しています。フタの持ち方、戻し位置、合図確認などに注意してください。専用の用具が使える場合は、極力それを使ってください。

◆風邪に注意◆

現地では、朝夕の気温差が大きくなってきており、風邪をひきやすい状況になっています。就寝時の服装への気配りも大切です。

活動レポート

岩　手

●大東拠点

【8/30】大船渡市内での側溝からの泥出し作業、陸前高田市内で水田からのがれき撤去、除草作業を実施。

宮　城

●仙台拠点

【8/30】仙台市宮城野区岡田地区で側溝の泥出し作業を実施。

●千厩拠点

【8/30】岩手県陸前高田市矢作町で、民家周辺や畑に積った泥の撤去作業を実施。

連合本部・災害対策救援本部　ボランティア派遣担当班
電話 03-5295-0555　FAX03-5295-0547（非正規労働センター）
hiseiki@sv.rengo-net.or.jp　（バックナンバー）http://www.jtuc-rengo.or.jp/saigai/report.html

つながろう NIPPON 連合

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

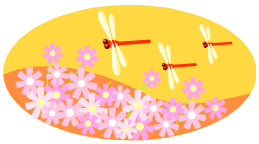
第 62 号
2011 年 9 月 6 日

第22陣163名が現地活動スタート

連合救援ボランティアの第 22 陣 163 名は、4 日に東京から現地に到着しました。台風 12 号の影響で第 21 陣の最終日が軒並み活動中止となり、その後の温帯低気圧の影響も心配されましたが、一部で雨による活動中止はあるものの、メンバーは各地で活動を開始しています。

【9 月 5 日現在の派遣人数】実数ベース 5,676 名、のべ人数 32,721 人
（岩手、宮城、福島　3 県合計）

活動レポート



岩　手

●大東拠点

【9/5】陸前高田ボランティアセンターが雨天活動中止を決定したため、大船渡市内綾里地区の県道で側溝の泥出し作業を実施。

●千厩拠点

【9/5】大船渡市内で、大東拠点のメンバーと共同で作業を実施。

※ 千厩拠点については、第 22 陣以降陸前高田地域での活動となったことを受け、連合岩手の管轄下となっています。

現地から 約 200m の側溝に詰まった土砂などを取り除く作業を行いました。土砂の中には、がれき、ガラス、イカ引き漁で使うひっかけ針などが混じっていました。

宮　城

●仙台拠点

【9/5】仙台市宮城野区岡田地区で側溝の泥出し作業を実施。

現地から 作業初日でしたが、役割分担も自然にでき、連携もとれて効率的に作業できました。土砂の中にはガラス片などが多く注意が必要です。

●美里拠点

【9/5】石巻市の鮫浦漁港で、ホヤの養殖棚に取り付ける付着器（「垂下連（すいかれん）」）づくりを手伝う（右写真）。

現地から 海上に据え付けられていた養殖棚が津波で打ち上げられてしまったため、改めて設置するとのこと。ロープにカキの貝殻を数十個ずつ通してつくっていきます。貝殻にホヤの種苗を付けてから、再びホヤが採れるようになるまで、3 年の期間を要するということです。

連合本部・災害対策救援本部　ボランティア派遣担当班
電話 03-5295-0555　FAX03-5295-0547（非正規労働センター）
hiseiki@sv.rengo-net.or.jp　（バックナンバー）http://www.jtuc-rengo.or.jp/saigai/report.html

■石巻市鮫浦地区の様子。約 30 軒あった家は 1 軒を除いて津波に流されてしまった。(5 日)

■写真：第 21 陣・仙台チームの作業（8 月 30 日　仙台市宮城野区）
（写真左）作業前の側溝。覆われた土砂から草が生え、側溝の場所も確認しにくい状態。(写真中）作業中の様子。
（写真右）作業後。側溝がはっきり見えるようになった。

連合本部・災害対策救援本部　ボランティア派遣担当班
電話 03-5295-0555　FAX03-5295-0547（非正規労働センター）
hiseiki@sv.rengo-net.or.jp

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第 63 号
2011 年 9 月 14 日

連合救援ボランティア第 23 陣のメンバー165 名は、第 22 陣から引き続いて、12 日から各地での活動をスタートしています。現地では９月に入って寒暖の差が大きくなっているとのことです。すでに活動のてびきなどで周知していますが、衣服の調節などに注意し、体調管理に努めて下さい。

活動レポート　＝第 22 陣から第 23 陣へ＝

●大東拠点

【9/6】大船渡市内で側溝の泥出し作業、陸前高田市内で水田の除草、がれき撤去、泥出し作業を実施。

【9/7】大船渡市内のスポーツ店でのがれき撤去、個人宅から仮設住宅への家財運搬、工場敷地内の清掃、土砂除去を実施。陸前高田市内では、水田の側溝からの泥出し、がれき撤去、除草作業を実施。

【9/12-13】大船渡市内での泥出し作業、陸前高田市内でがれき撤去、草刈り作業を実施。

●千厩拠点

【9/6】陸前高田市米崎町の水田で。がれき撤去、除草作業を実施。

【9/7-8】陸前高田市竹駒町にある会社の資材置き場を宅地として利用するため、砂利、レンガなどを土のうに詰め替えるなどの立ち退き準備作業を実施。

【9/9】陸前高田市気仙町双六（すごろく）地区で、個人宅納屋の泥出し・漁網の整理、田んぼと土手の草刈り作業を実施。

■この日開け閉めした側溝は 279 枚を数えた（8 日・仙台市宮城野区）

●仙台拠点

【9/6-7】仙台市宮城野区岡田地区で、側溝からの泥出し、刈り取られた雑草の片づけ作業を実施。

【9/8-9】前日と同じ岡田地区で、民家周辺の側溝からの泥出し作業を行う。

【9/12】引き続き岡田地区で個人宅のがれき撤去、除草作業を実施

●美里拠点

【9/6-7】前日に続き、石巻市鮫浦地区で、ホヤ養殖のための用具（垂下連）をつくるため、穴を開けたカキの殻にロープを通し一連にする、「からこさし」と呼ばれる作業を実施。

【9/8-9】石巻市鮫浦地区で、がれきの撤去作業を実施（写真中）。

現地から　津波で流された木材や家具、電気製品などを、丘陵地から平地に移動させました。前日までと比べると重労働ではありましたが、参加者のみなさんには余力があり、元気に作業に取り組んでいました。

【9/12】石巻市給分浜（きゅうぶんはま）地区の地元漁師宅で、ワカメ養殖用の器具準備作業を手伝う（写真下）。

【9/13】石巻市鮎川大町で、側溝の清掃作業を実施。

連合本部・災害対策救援本部　ボランティア派遣担当班
電話 03-5295-0555　FAX03-5295-0547（非正規労働センター）
hiseiki@sv.rengo-net.or.jp　（バックナンバー）http://www.jtuc-rengo.or.jp/saigai/report.html

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第 64 号
2011 年 9 月 20 日

連合ボランティアのバトン　アンカーにつなぐ

■第 24 陣出発式で、最後まで頑張る決意を固め合う（左：大東拠点先発組　右：仙台・美里・千厩・大東拠点後発組）

18 日、連合救援ボランティアの第 24 陣メンバーを乗せたバスが岩手、宮城の各拠点に向けて出発しました。3 月 31 日の第 1 陣派遣開始から半年。現在の枠組みでの団体ボランティア派遣は今回の第 24 陣をもっていったん区切りとなります。9 月 20 日現在の実派遣人数は 6,000 名、延べ活動人数は 34,003 人となっています。

連合本部前で 18 日午前に行われた出発式では、大東拠点の基幹労連・清水和弘さんと、仙台拠点の情報労連・永井浩さんが、それぞれ決意表明を行いました。このうち清水さんは「参加者が、職場や家族のサポートのおかげでボランティアに参加できている。支えてくれた人や参加できなかった人たちの分まで現地の役に立っていきたい」と述べました。連合本部を代表してあいさつした團野副事務局長は、「これまでボランティア参加した多くの人の思いは確実に現地につながっている。本格的な復興はまだまだこれからだが、われわれの活動は必ず東北の復興、日本の再生につながると確信している。最後まで健康に留意して頑張ってほしい」と激励しました。

活動レポート　＝第 23 陣～第 24 陣＝

●大東拠点

【9/16】大船渡市内で側溝からの泥出し作業、陸前高田市内で側溝の泥出し作業、がれき撤去などを実施。

●千厩拠点

【9/19】陸前高田市小友地区で、畑の側溝の泥出し、草刈り作業を実施。

●仙台拠点

【9/16】仙台市宮城野区岡田地区で、民家周辺道路の側溝での土砂除去作業を実施（写真右）。午後は、地区にある「岡田会館」の清掃作業を実施。

●美里拠点

【9/16】石巻市鮫浦地区で、山林での漁網などの撤去作業を実施。

■写真左：林の中にまで打ち上げられた漁具が、この地区を襲った津波のすさまじさを示す。写真中：漂着物の中には重いものもあり、メンバーが協力して引き上げる。写真右：この日集めた漁具は、小さな山ができるほどの量となった。(9/14, 16　石巻市)

連合本部・災害対策救援本部　ボランティア派遣担当班
電話 03-5295-0555　FAX03-5295-0547（非正規労働センター）
hiseiki@sv.rengo-net.or.jp　（バックナンバー）http://www.jtuc-rengo.or.jp/saigai/report.html

つながろう NIPPON 連合

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第 65 号
2011 年 9 月 27 日

この間のご協力に 感謝申し上げます

半年間のボランティア派遣に区切り

■24 次にわたり、のべ約 3 万 5 千人を派遣

24 日朝（岩手・大東拠点組は 25 日朝）、連合救援ボランティア・第 24 陣のメンバーが無事東京駅に到着し、3 月 31 日の第 1 陣派遣開始から続いてきた連合の災害救援ボランティア派遣は、当初計画の取り組みを終えました。約 6 カ月の間に派遣された人数は、実数で 6,023 名、のべ活動人数は 34,549 人を数えました。県別の内訳は下表の通りです。半年間にわたりご協力頂きました各構成組織・地方連合会のみなさんに御礼申し上げます。

一定規模のボランティア隊を継続して派遣し続ける連合としての取り組みは、いったん終了となりますが、被災地の復興に向けた取り組みは未だ始まったばかりであり、引き続き連合は、被災地のさまざまなニーズを把握しながら、連合・労働組合の持ち味が活かせる取り組みを検討・提起していくことにしています。各構成組織・地方連合会には、今後も取り組みを要請することがあると思いますが、よろしくお願いいたします。

連合災害救援ボランティア　派遣者数（9/23 終了時点）

	合　計	岩　手	宮　城	福　島
派遣者実数	6,023 名 男性 5,565 名 女性　458 名	2,752 名 男性 2,466 名 女性　286 名	1,833 名 男性 1,744 名 女性　89 名	1,438 名 男性 1,355 名 女性　83 名
のべ活動人数 （人数×活動日数）	34,549 人	14,310 人	10,861 人	9,378 人

（数値は、連合本部としての派遣者数であり、このほかにも近隣地方連合会からの派遣が行われています）

■ボランティア隊、各地で活動を締めくくる

各拠点のボランティア参加者は 23 日、最終日の活動を行いました。大東拠点では陸前高田市、大船渡市で草刈りや泥出しの作業を、千厩拠点では陸前高田市小友地区で田んぼの草刈り作業を行いました。仙台拠点では仙台市宮城野区岡田地区での側溝清掃を実施。美里拠点では石巻市鮎川地域で、台風 15 号で被害を受けた家屋の土砂や畳の撤去作業を行いました。それぞれのメンバーは、最終日ということもあり、気合十分で作業を行いました。

■台風で浸水した家の片づけを手伝うボランティア隊（23 日・石巻市）

■仙台拠点での解団式の様子（23 日）

活動終了後、各拠点で解団式が行われました（大東拠点は次頁参照）。このうち千厩拠点では、これまで食事の用意やバスの運行でお世話になった方々を招いて、夕食を共にし、感謝の思いを伝えました。

連合本部・災害対策救援本部　ボランティア派遣担当班
電話 03-5295-0555　FAX03-5295-0547（非正規労働センター）
hiseiki@sv.rengo-net.or.jp　（バックナンバー）http://www.jtuc-rengo.or.jp/saigai/report.html

地域への感謝・復興への思いを込め　交流会を開催　～大東～

活動を終えた翌日の 24 日、岩手・大東拠点では、約 2 カ月間お世話になった地元への感謝活動として、地域貢献活動と交流会が行われました。

ボランティア隊第 24 陣のメンバーは午前中、拠点として利用してきた旧丑石(うしいし)小学校の校庭の草刈り、側溝の泥出し、交流会の準備を全員で行いました。正午から始まった交流会には、地域住民、食事づくりなどでお世話になった方々、バス会社、陸前高田市災害ボランティアセンター、一関市大東支所など約 100 人が参加しました。

連合岩手・砂金(いさご)会長は、「素晴らしい環境を提供して頂き、活動に集中できた。連合チームが来たことで、まちが明るくなったという言葉も頂いた。地域の一員として迎えて頂いたことに感謝する。3 月 11 日から 200 日を迎えようとしているが、陸前高田ではまだ 2 千人が行方不明のままであるなど、厳しい状況が続いている。しかし、われわれの活動に対して『明日からの暮らしに見通しを立てることができた』という言葉を頂くこともあった。連合の活動が次の一歩につながると確信している」と述べました。

丑石地区の菊池自治会長からは「長期間にわたる活動に感謝する。これまでの支援を無駄にしないよう、私たち岩手もがんばる。岩手のことを忘れず、ますますの力添えを頂きたい」との言葉を頂きました。

陸前高田市災害ボランティアセンターの星センター長は「連合と地域の皆さんに感謝する。復興に向けて一歩ずつがんばっていくので、支援をお願いしたい」と述べました。

続いて、地元の方から、連合に対する感謝と岩手・宮城・福島の復興への思いを込めた「まとい」が贈呈されました。

そして、丑石小学校と統合した興田小学校の子ども達による「外山節」、地元保存会による「権現舞」が披露されたのに続いて、地元の方々が「大東音頭」を踊ると、ボランティア隊もその輪に加わり、地域の方々と一つの輪を作りました。

■子ども達による外山節に大きな拍手が送られた。贈呈された「まとい」には、宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」をもとにした、次の詩が記されている。

―― 雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ
雪ニモ、夏ノ暑サニモ負ケヌ、丈夫ナ体ヲ持チ
千年ニ、一度ノ　地震ニモ負ケズ
希望ヲステズニ
元気ニ前向キニ
生キテ、ユキタイ

■ボランティアメンバーを合わせた 200 人で大きな踊りの輪ができた。

■連合ボランティア参加者に丑石小 OB

今回の連合ボランティア隊には、偶然にも、丑石小学校 OB の方が参加していました。電機連合から参加した佐藤富善さんは、25 年ほど前に丑石小学校を卒業、それ以来の学び舎訪問が震災ボランティアという形になりました。佐藤さんは「以前からボランティアに参加したいと思い、ようやく参加できた。活動先が岩手で、拠点が丑石小、しかも自分たちが最後のチームになると聞き、感慨深いものがある。宮城、福島も含め、電機連合としても引き続き支えて行くし、連合としてもそれぞれの地域への引き続きの支援をお願いしたい」と話していました。

■すべての拠点の最後となった、大東拠点の解団式（24 日）

連合本部・災害対策救援本部　ボランティア派遣担当班
電話 03-5295-0555　FAX03-5295-0547（非正規労働センター）
hiseiki@sv.rengo-net.or.jp

活動の締めくくりにあたって

１日でも早く被災地に支援の手を差しのべたい。けれどもライフラインの復旧もままならず、ガソリンを入れるにも長蛇の列ができる状態が続く。そんな中、３月 26 日の相馬ボランティアセンターへの先行派遣を行い、継続的な活動や長期滞在のための最低限の環境整備が整ったと判断できた３月 31 日、連合救援ボランティア第１陣が元気よく岩手、宮城、福島の３県に出発した。しかしながら、仙台はこの時点でも都市ガスが復旧しておらず、必ず風呂に入れる状態には無かった。

第１陣が７日間の作業を終了し帰途についた直後の４月７日深夜、再び大きな余震が東北地方を襲った。激しい揺れに遭いながらも第１陣は無事に帰京できたが、第２陣については、岩手は２日遅れの出発。宮城はベースキャンプの宮交会館に損傷があり派遣を見送らざるをえず、既に出発式のため連合本部に集まって頂いた全国からの参加者には本当に申し訳ないことになってしまった。

現地での活動も、ベースキャンプでの生活も、何もかも手探りでのスタートであったが、受け入れの連合岩手、連合宮城、連合福島が、各々構成組織としっかり団結しつつ、自治体や社協、関係団体、企業、地域との連携により、着々と活動基盤が構築され進化してきた。また参加者自らが活動のレベルを上げ、しっかりと引き継いでくれたお陰もあり、極めて充実した活動へと発展を遂げた。

最初の頃は寒かった。雪やみぞれが降る中での活動もあった。雨と蒸し暑さに悩まされた梅雨の後は猛暑のとの闘いが続き、９月は台風が被災地を直撃した。最終の第 24 陣の頃には、朝晩はすっかり冷え込むようになっていた。テレビや新聞では絶対に伝わらない異臭悪臭、そして群がるハエの大群など、経験した人でしか分からないしんどさもあった。

被災地に迷惑を掛けないという原則のもと、食料も自給体制を敷いたが、被災地やベースキャンプ近隣の方々から何度となく差し入れを頂いた。最初は丁重にお断りしようとしたが、心からの善意に気持ちが揺らいだ。

ボランティアセンターの作業指示書には「がれき撤去」や「ごみ清掃」としか書かれていないが、参加者はがれきやごみの中から、決してそう扱うべきではないものを自発的に区別した。多くの写真やアルバム、手紙や親書、年金手帳、名前入りの文房具やぬいぐるみ、位牌などを持ち主に届けようとした。作業中に、被災された方と２時間以上にわたって話をした参加者もいた。数多くの出会いと心動かされる出来事を通じて、地域との絆が深まった。作業中誰からも声を掛けられないような場所であっても、泥を詰め込んだ土嚢袋の数や、積み上がった瓦礫の高さが、活動の証として共有された。

異なる構成組織、地方連合会の仲間が同じ屋根の下で同じ釜の飯を食べた。同じ産別でも多くの仲間が初対面だったが、おなじ連合の赤帽をかぶり活動した。地域との交流会では、これまで労働組合とはつきあいのなかった農家や商店の方々が、連合の赤帽をかぶってボランティアと一緒に盆踊りを踊った。

二度とこんな大災害は起きて欲しくはないが、万が一のため全ての地方連合会にはブロック毎にベースキャンプの運営スタッフを派遣頂き、ノウハウを身につけて頂いた。連合本部からもすべての局からベースキャンプ運営スタッフを派遣した。

日々の仕事やくらしは経済の発展や社会の安定がなくては成り立たない。被災地では地震・津波によって仕事やくらしの前提が破壊されてしまった。労働組合として全国の仲間の思いと力を結集し、被災地の復旧・復興の力に少しでもなりたい。私たち一人一人の力は小さいけれど、全国の仲間の力が結集すれば大きな力となる。労働運動の原点であり本質とも言える活動であったと思う。

一連の活動の締めくくりにあたって、全ての構成組織、地方連合会、組合員およびご家族のみなさまに感謝を申し上げます。本当に有り難うございました！

災害対策救援本部・ボランティア派遣担当班
山根木　晴久